

●九州工業大学 工学府

「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」の事例 <理工農系>

具体的に何を実施し、何が困難であったのか

本教育プログラムは、博士前期および後期課程を統合する博士課程一貫教育において専攻横断型の「開発プロジェクト」を基軸とする実践的工学教育が特徴である。そのため、各専攻の教員ならびに部局の事務方を交えた会議体を編成して運営を行っている。長期的な視野で教育プログラムの運営を行う必要があることから、その成果検証や改善に対しては、個々の学生の履修状況や研究成果だけに頼ったフィードバックだけでは難しい面がある。

苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか

本教育プログラムに初めて参加した学生は、現在博士後期課程の2年生に在学中であり、産業界で活躍し始めるまで1年余りを残している。教育成果の集大成は、学生の在学中の履修状況や研究成果だけの判断では不十分で、実質は産業界での活躍を待たなければならない。

どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか

このような状況で本教育プログラムを効率良く改善していくには、日頃からの産業界との情報交換や学生との情報共有等を通じて、きめ細かな対応が求められると思われる。その対策として、「開発プロジェクト」に関する企業のみならず、定期的に地域の経済界に対しても本教育プログラムの紹介や状況報告を行うことにしている。こうした交流を通じて、産業界が必要とする人材像や、産業界そのものの動向等を共有することも大切だというのが学生側の感想でもある。